

【かわいい子には旅をさせよ】

「玉も磨かざれば光なし」とか「艱難汝を玉にす」という諺がありますが、これは「人間は、苦勞を一つ一つ克服することによって能力が養われ、人間としての深みも身に備わってくるものである」ということを表わしたものです。

家では何もせず、何も出来なかった子供でも、旅に出ますと親の助けが得られません。それで、何事でも独力で、頭も使い体も使って処理するようになります。その苦勞が、人間としての資質を向上させますので、「子供を立派な子供にしたかったら、旅に出して苦勞させなさい」というわけです。

今の親は暇がありすぎて、何かと子供の世話をやき過ぎます。だから、頭を使い体を使う機会が少なく、能力が育ちません。そのため、意志も薄弱で、ちょっとした障害にも簡単に挫折してしまいます。また、耐える力が弱いものですから、悪の誘惑にも容易に乗り、非行に走りがちです。

昔の親は、生きることに追われて、そのため子供も苦勞することが多かったのですが、それに耐える力も自然に養われ、頭を使い体を使うので頼もしい子供に育ちました。今、そういう子供が少なくて、反対に問題のある子供が多いのは、子供が玉を磨く苦勞をしなくなったからです。

今こそ、「かわいい子には旅をさせよ」という諺の意味をよく考え、どうしたらわが子が鍛えられるか、その具体的な方法を真剣に考えるべき時だと思います。

“旅”という字は、“𠂔”と“从”の変形である“𠂔”とで作られた字です。“𠂔”は偏の部分の旗棹に、旗がひるがえっている様子を表わした字です。

“旗”という字は、この“𠂔”に四角形を意味する“其”(棋は四角形の板を表わした字で、碁盤や将棋盤を意味したもの)とで、国旗のような長四角の形の“はた”を表わしたものです。

“旂”という“はた”がありますが、これはふちに毛のついたもので、優勝旗はこれに当たります。

“旆”という“はた”は、長い布で作られた“吹き流し”のことです。

さて、“旅”は、人々が旗を先頭に立てて行軍することを表わしたもので、“行軍”つまり“たび”の意味を表わしたものです。また“軍隊”そのものを表わすこともあります。“軍旅”という言葉がそれです。

戦前の日本の軍隊に“旅団”という名称がありました。大きな軍団の単位を表わした名称でした。これも“軍隊”の意味を表わしたものです。

今では、“旅行”というように単なる“たび”の意味に使われますが、それでも集団旅行にはやはり“旗”を先頭に立てて歩いているのを見かけます。やっぱり“旅”という字にふさわしい姿ですね。